

授業科目名		対象学科・専攻		年次	期別
保育内容の指導法（表現Ⅰ（音楽・造形）） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I)		児童教育学科 初等教育学専攻		2年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態	
演習	2	必修	田中 奏子・上田 奈奈 （音楽） 縄田 也千（造形）	単独	

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

〇コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（1）各領域のねらい及び内容
 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。
 到達目標：1）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 2）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 3）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 4）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

（2）保育内容の指導方法と保育の構想
 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 到達目標：1）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 2）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
 3）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
 5）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【全体目標及び概要【音楽】】	
豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。	
【一般目標及び到達目標【音楽】】	目標対応
(1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	(1)-1)
2) 表現を生成する過程について理解している。	(1)-2)、4)
3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	(1)-3)
(2) 身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	(2)-1)
2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	(2)-2)
3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	(2)-3)
4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	(2)-4)
5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	(2)-5)

回数	保育内容の指導法（表現Ⅰ） 授業内容【音楽】 【田中奏子】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	幼児と表現、音楽表現について理解する。（オリエンテーション）	(1)-1)、2)、3)	(1)-1)、2)、3)、4)
2	音楽を中心とした音楽劇について DVD を視聴して具体的に理解する。	(2)-1)、2)、3)	(2)-1)、2)、3)
3	「表現あそび」を体験し、幼児の感性と表現について学ぶ。 「表現あそび」における ICT の活用法について保育場面の映像から学び、保育構想に活用するアイデアを考える。	(1)-1)、2)、 (2)-1)、-2)	(1)-1)、2)、4) (2)-1)、2)
4	「音あそび」を体験し、イメージ活動の基礎を学ぶ。 自分たちで作った音を録音し、音の教材を作成する。	(2)-1)、2)	(2)-1)、2)
5	「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICT を用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する。	(1)-2)、 (2)-2)、4)、5)	(1)-2)、4) (2)-2)、4)、5)
6	「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ。	(1)-1)、2)、 (2)-2)、3)	(1)-1)、2)、4) (2)-2)、3)
7	「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ。	(2)-1)、2)、4)	(2)-1)、2)、4)
8	グループ練習。 絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。	(2)-2)、3)、4)、 5)	(2)-2)、3)、 4)、5)
9	グループで創作活動について指導計画を立案する。	(2)-2)、3)、 4)、5)	(2)-2)、3)、 4)、5)
10	グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。	(2)-2)、3)、4)、 5)	(2)-2)、3)、 4)、5)
11	中間発表を行い、各グループ評価しあう。 発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。	(1)-3)、 (2)-3)、4)	(1)-3)、 (2)-3)、4)
12	グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認	(2)-2)、3)、4)、 5)	(2)-2)、3)、 4)、5)
13	模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動	(1)-3)、 (2)-1)、4)、5)	(1)-3)、 (2)-1)、4)、5)
14	模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動	(1)-2)、3)、 (2)-4)、5)	(1)-2)、3)、4) (2)-4)、5)
15	模擬保育の反省を行なう。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。	(1)-1)、(2)-5)	(1)-1) (2)-5)
定期試験	実施しない		

全体目標及び概要【造形】	
保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。	
【一般目標及び到達目標【造形】】	目標対応
(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。	(1)-1)
1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	(1)-2)
2) 領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	(1)-3)
3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	(1)-4)
4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教科書とのつながりを理解している。	(2)-1)
(2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。	(2)-1)
1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	(2)-2)
2) 領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	(2)-3)
3) 指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	(2)-4)
4) 模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。	(2)-5)
5) 領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。	

回数	保育内容の指導法（表現Ⅰ） 授業内容【造形】 【縄田也千】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
16	表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する。	(1)-1) -2)	(1)-1)、2)
17	表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する。	(1)-2) (2)-1)	(1)-2) (2)-1)
18	表現活動の3系論、拇指対向性、円の終結を理解する。	(1)-1) (2)-1)	(1)-1) (2)-1)
19	0歳～6歳までの幼児画を観察し各年齢の特徴を理解する。	(1)-2) (2)-1)	(1)-2) (2)-1)
20	絵の具、パス、竹ペン、筆等の主な用具の特徴を理解する。 タブレットを用いて絵の具の使い方を撮影した教材を作成する。	(2)-2) -5)	(2)-2)、5)
21	保育場面の映像を通して絵遊び(線遊び、記号遊び、みたて遊び)の指導法を学ぶ。	(1)-2) (2)-2)-5)	(1)-2) (2)-2)、5)
22	幼児のハサミとノリの使い方について保育場面の映像を通して子どもの姿を学び、具体的な指導法を学ぶ(切り止めなど)。	(1)-2) (2)-2) -5)	(1)-2) (2)-2)、5)
23	紙の種類について学び、季節に合わせた美しい折り紙、切り紙、壁面構成が出来るようになる。	(1)-2) (2)-2)-5)	(1)-2) (2)-2)、5)
24	季節に合った造形遊びの方法を学ぶ(色水遊び等)。	(1)-2) (2)-2)-5)	(1)-2) (2)-2)、5)
25	モダンテクニック① ドリッピング、コラージュなどの美術史的由来を、ICT機器を活用して理解する。	(1)-2) (2)-2)-5)	(1)-2) (2)-2)、5)
26	モダンテクニック② 染め紙、マーブリング、洗い絵、フロッタージュのテクニックを学び、幼児造形に活用できるよう教材を工夫し、手順を示したタブレット教材を作成したうえで指導案を作成する。	(1)-2) (2)-2)-5)	(1)-2) (2)-2)、5)
27	モダンテクニック③ デカルコマニー、パチック、スクラッチ、ステンシル他のテクニックを学び、幼児造形に活用できるよう教材を工夫し、手順を示したタブレット教材を作成したうえで指導案を作成する。	(1)-2) (2)-2)-5)	(1)-2) (2)-2)、5)
28	小学校図画工作の教科書を見て関連性を学び、評価の方法を学ぶ(否定しない、良さを褒める、保育者の好みに合わせない、など)。	(1)-2) -3) -4)	(1)-2)、3)、4)
29	授業から好きな題材を選ぶ。技能優先ではなく、「子どもの心」を育てる「指導案」を立案できる。	(2)-3)	(2)-3)
30	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法、評価方法を身に付け、更なる向上に取り組むことができる。	(2)-4)-5)	(2)-4)、5)
定期試験	実施しない		
成績評価法	音楽：毎回の学習状況(関心・意欲・態度)50%、発表点(表現力)25% レポート(理解力・判断力)25% 造形：毎回の学習状況(意欲・感性・態度)30点 作品提出(完成度・技能・発想力)50点 レポート(理解度、思考力)20点 音楽と造形、それぞれ100点満点で評価し、2つの平均値を評価点とする。		
テキストおよび参考文献	テキスト:幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省) 『幼児の音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子他 教育芸芸術社 『うたっておどっておもちゃ箱2』鈴木 恵津子 教育芸芸術社 『保育内容の指導法(表現Ⅰ(造形))』山口短期大学 参考文献:林建造他『領域「表現」』国文書院		
メッセージ	(音楽) この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。 (造形) 子どもの絵は、頭から手足が出ていて不思議です。でも意味があるのです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。		

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度） グループ活動	5%
(1)-2) 表現を生成する過程について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。		5%
(1)-3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。		10%
(2)-1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	授業への取り組み グループ活動 課題レポート (思考力・判断力・表現力)	10%
(2)-2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。		15%
(2)-3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。		15%
(2)-4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。		20%
(2)-5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。		20%

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	レポート（理解力、思考力）	5%
(1)-2) 領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	レポート（理解力、思考力）	5%
(1)-3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	レポート（解力、思考力）	5%
(1)-4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教科書とのつながりを理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	レポート（解力、思考力）	5%
(2)-1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、その上で子どもの絵の特徴を完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きく間違いがなく理解し、その上で子どもの絵の特徴を説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、その上で子どもの絵の特徴をある程度説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解できない。子どもの絵の特徴を説明できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児造形に関する意欲、関心、態度 (30%) ・用具、材料の理解。モダンテクニック等を使いこなし、子どもの発達や立場に立った試作品への取り組み（完成度、技能、発想力） ・材料の特質を生かした指導案作成、模擬授業 (50%) 	80%
(2)-2) 領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。		
(2)-3) 指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。	理解していない。指導案を作成できない。		
(2)-4) 模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	計画を練ることができない。		
(2)-5) 領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。	ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。	大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている。	間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。	知識、技能、指導法を身に付けていない。		